

行政視察報告書

令和6年10月23日

長浜市議会議長 高山 亨 様

長浜市議会議員 松本 長治

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 令和6年度総務教育常任委員会行政視察研修
2. 視察期間 令和6年10月21日（月）～10月22日（火）
3. 視察場所及び目的
 - ①岡山県高梁市
豪雨災害を教訓とした防災対策について
 - ②島根県出雲市
市立幼稚園の今後のあり方について
4. 調査内容感想等

・視察の目的

【岡山県高梁市】

平成30年7月、豪雨により大きな被害にあわれた高梁市において、当時の様子と対応、その後の復旧・復興についてお聞きしたい。特に、当時の発災時点での市の対応や市民の方々の様子、災害を通した検証の内容、災害以前とその後の対策の違いなどについて勉強させていただきたい。

【島根県出雲市】

合併以前からそのまま進められてきた市の幼稚園の経営について、少子化や社会情勢の変化など、これから抜本的に見直しが求められる、保育と就学前教育のあり方についての課題に対する取り組みは、当市にとっても急務であると考えます。

今回、出雲市が行っておられる、あり方検討ワーキング会議やアンケートを基

にした、それぞれの園との意見交換会などの進め方について学ばせていただきたい。

・視察内容

【岡山県高梁市】

岡山県中西部に位置する高梁市ですが、数年前に視察に伺ったこともあり、今回が 2 度目となりますが、大変すばらしいまちであり、特に小堀遠州が作庭したと言われるお庭もあり、当市とのつながりも感じます。

市の中央部を高梁川が貫流し、そこに交わるように成羽川が流れ込んでおり、普段は清流と共に豊かな生活が営まれている印象を受けますが、平成 30 年 7 月 5 日夜、1 時間あたりの降雨量が極端に増えたため、避難勧告が発令されたものの、一旦おさまったため翌朝 9 時頃避難勧告の解除がされた。その後、19 時頃再度避難勧告の発令、23 時頃には市内に向け避難指示が出されるほど、降雨量が増えたとのことでした。

特に被害としては支川である成羽川の氾濫がひどく、複数カ所で土砂崩れが発生、住民が生き埋めになられたものの、無事救出され事なきを得た方が何人もおられるそうですが、それでも、死者や行方不明者もおられたとお聞きし、非常に残念に思います。あわせて、被害のさらなる拡大を抑えられたことに対し、全体として初期対応が素晴らしかったのではないかと、お話から感じました。

被災者支援では避難所の設置や自衛隊要請、支援物資の受け渡し、ボランティアセンターの開設、特に県外からの支援自治体の受け入れに力を注がれたこと。他には災害廃棄物処理が大変で、クリーンセンターも被災したため、近隣の町などに処理をお願いされたとのことをお聞きし、あらためて、災害がどのように起こり、人や施設のその後の活動に、影響を及ぼすか本当にわからないなと感じます。

災害指定関係としては、時系列に「災害救助法適用」、「被災者生活再建支援法適用」、「特定非常災害指定」、「激甚災害指定」を受けられたとのこと。

復興計画としては、次期総合計画を 2021 から 2030 年に策定するもので、復興の基本方針としては、

1、市民生活の再建

2、災害に強い安全・安心なまちづくりの推進

3、産業・経済の再生

4、復旧・復興に向けた財政運営

により、市民のニーズや社会的な要請に対応し、高梁市総合計画との整合を図りつつ、1日も早い復旧・復興を目指すとしています。

主な内容としては、住まいの再建、内水危険箇所の被害防災対策、地域防災力の向上などを目指すソフトの取り組み、避難所の整備及び災害時における情報伝達手段の確保のため、河川監視カメラの設置や避難所整備事業、防災ラジオ整備事業。また、出水期における各ダム（市内6か所のダム）における事前放流に向けた取り組み、立地適正化計画の策定を行い、居住誘導区域の災害リスクに対し、防災・減災の取り組みを幅広く進められています。

【島根県出雲市】

これまでの法人主体の保育所定員拡大の中で、市立幼稚園との棲み分けがあり、保育所単体の認定こども園化は起きなかったとのこと。そもそも、市町合併により当時の施設経営が維持されるとともに、幼稚園は国の新制度（幼保一体化）が検討中であったため、具体の動きは起きなかったが、合併以降数年を経て、特に市の周辺部において、少子化の進行・社会情勢の変化により、市立幼稚園の園児数は減少が進み、園児数確保策として、『預かり保育事業』を展開しているが、減少傾向は変わらない。あわせて施設の老朽化も課題となっている。そこで、市立幼稚園のあり方検討ワーキング会議の設置がされ、『より効果的で均衡のとれた幼児教育』、『より効率的幼稚園経営』を行うため、市立幼稚園が直面している現状を把握し課題を整理する必要があるとされ話し合いがはじめられた。

その課題としては、

①社会情勢の変化に伴う市立幼稚園の役割・意義の希薄化への対応

②質の高い幼児教育の提供の維持

③集団教育・保育のあり方の検討、見直し

今後の進め方として、

・令和5年度、出雲市教育審議会で「今後の市立幼稚園のあり方」について審議

いただく。

・保育所運営を担う組織関係者、子育て世代の保護者や地域などからの意見を伺う必要がある。

とされている。

また、令和 5 年 7 月 24 日に出雲市長から出雲市教育政策審議会へ諮問書を提出されたこと。あわせて幼稚園・保育園・認定こども園に関するアンケートをされ、その回答としては特に、

・自分の地域にあったほうがいい

・小学校区にあったほうがいい

・兄弟が通う園に通わせたい 等

現在、園児数のさらなる減員の加速、民間保育園の一部定員割れ等から、再度市としての方針を打ち出す必要性があったので、和 6 年 7 月に出雲市教育政策審議会の答申がされ、現在、25 園すべての幼稚園運営協議会へ説明・意見を聴取中との事で、令和 6 年度内に市の方針を策定予定との事でした。

他にも、出雲市では第 4 期出雲市教育振興計画において、『特別支援教育の充実』を目標とされており、また、外国にルーツを持つ幼児への対応については、通訳兼保育補助員を配置されています。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

【岡山県高梁市】

現実的な取り組みの必要性（発災の内容によって、時間や場所、年齢構成などを含めた住民の形態など）を強く感じました。

まずは、何をどう伝えるか。その方法の精査をしっかりと行うこと。また特に、その地勢にあわせた対策対応がきめ細やかになされているか。災害に対する備えは一樣ではなく、災害想定に準じているか。またそのことが自分事として住民に周知できているか。など、平常時では考えられないことが、災害時には起こるのは必然であるとの認識を基に準備することが必要であるとあらためて感じました。

今回の豪雨災害は、長浜でも十分考えられる災害のひとつであり、河川の増水や土砂災害に対する備えを、再度確認する必要があります。

【島根県出雲市】

当市でも、少子化や社会情勢の変化により、幼稚園の運営が厳しくなっています。従前から引き継がれている施設の運営について、効果的・効率化を重視すべきではあるものの、地域的な課題もあり難しい問題です。特に廃止となった場合、施設までの距離が増すことによる通園や、地域の園という関係性の希薄化などの課題に対し、しっかりとした市民の皆さんとの説明や対話による理解と納得をお互いが重ねていくことが、何よりも大切であると感じました。